

北薩感染症情報

2019年第36週(9月2日~9月8日)

【問い合わせ先】〒895-0041 薩摩川内市隈之城町228番地1
 北薩地域振興局保健福祉環境部(川薩保健所)健康企画課
 電話 0996-23-3165 FAX 0996-20-2127
 E-メール kita-kenkou-shippe@pref.kagoshima.lg.jp

川薩・出水保健所における定点報告疾患

◎: 警報発令中 ○: 注意報発令中

定点種別	対象疾患	警報レベル			注意報レベル	川薩保健所管内					出水保健所管内				
		開始基準値	終息基準値	基準値	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	前週報告数(人)	今週報告数(人)	定点報告数	前週からの増減	警報注意報	
		定点報告数													
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.0	10.0	10.0	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
小児科定点	RS	-	-	-	23	26	6.50	↗	-	16	15	5.00	↓	-	
	咽頭結膜熱	3.0	1.0	-	2	1	0.25	↓	-	4	3	1.00	↓	-	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.0	4.0	-	10	3	0.75	↓	-	11	8	2.67	↓	-	
	感染性胃腸炎	20.0	12.0	-	9	15	3.75	↗	-	-	2	0.67	↗	-	
	水痘	2.0	1.0	1.0	-	1	0.25	↗	-	-	2	0.67	↗	-	
	手足口病	5.0	2.0	-	3	5	1.25	↗	-	12	17	5.67	↗	◎	
	伝染性紅斑	2.0	1.0	-	28	32	8.00	↗	◎	4	3	1.00	↓	-	
	突発性発疹	-	-	-	3	2	0.50	↓	-	1	2	0.67	↗	-	
	ヘルパンギーナ	6.0	2.0	-	7	13	3.25	↗	-	-	2	0.67	↗	-	
	流行性耳下腺炎	6.0	2.0	3.0	-	-	-	→	-	-	1	0.33	↗	-	
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.0	0.1	-	-	-	-	→	-	/	/	/	/	/	
	流行性角結膜炎	8.0	4.0	-	1	-	-	↓	-	/	/	/	/	/	
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	-	-	-	-	-	-	→	-	-	-	-	→	-	
インフルエンザ 入院報告	-	-	-	-	-	/	/	-	/	/	/	/	-		
報告数合計		-	-	-	86	98	/	↗	/	48	55	/	↗	/	

<注意報・警報>

・川薩保健所管内 伝染性紅斑の警報が3週連続継続中。

・出水保健所管内 手足口病が警報開始基準値(5.00)を超え「5.67」となり「流行発生警報」を発令します。

※ 4ページ目に、「手足口病の予防」について掲載していますので参考してください。

<全数報告>

- ・川薩保健所管内 結核(患者1人)
- ・出水保健所管内 結核(患者1人)

<インフルエンザ様疾患による学級閉鎖等>

- ・川薩保健所管内 なし
- ・出水保健所管内 なし



○ 結核予防週間について

厚生労働省は、毎年9月24日~9月30日を結核予防週間と定めており、県においてもこの期間中に結核に対する正しい知識の普及啓発に努めています。

・令和元年度の標語は「あのとき、〇〇していれば・・・」です。

※最後のページに、結核についてのリーフレットを掲載していますので参考してください。

定点種別	疾病	警報/終息 基準値	注意報 基準値	川薩保健所管内推移 (定点報告数) 基幹定点(報告数掲載)										
				27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	-	-	-	-	-	-	0.33	-	0.71	-	-
小児科定点	RSウイルス感染症	-	-	-	-	0.25	-	-	0.33	0.25	0.75	5.75	6.50	
	咽頭結膜熱	3.00/1.00	-	0.75	1.25	0.75	0.50	0.50	0.33	0.25	-	0.50	0.25	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	-	0.75	0.50	0.75	0.75	1.75	0.67	1.25	0.75	2.50	0.75	
	感染性胃腸炎	20.00/12.00	-	0.75	0.50	1.75	1.25	2.75	2.33	2.75	2.25	2.25	3.75	
	水痘	2.00/1.00	1.00	-	0.50	0.25	0.25	0.75	1.33	-	0.25	-	0.25	
	手足口病	5.00/2.00	-	3.00	2.00	1.75	1.75	4.50	2.67	1.00	1.25	0.75	1.25	
	伝染性紅斑	2.00/1.00	-	1.50	1.50	1.00	1.00	1.00	2.33	0.75	3.75	7.00	8.00	
	突発性発疹	-	-	0.75	0.75	0.75	1.00	1.25	1.00	-	0.25	0.75	0.50	
	ヘルパンギーナ	6.00/2.00	-	-	0.75	0.75	0.75	1.25	1.33	0.50	0.75	1.75	3.25	
	流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	-	-	-	-	-	-	0.25	-	-	-	
眼科定点	急性出血性結膜炎	1.00/0.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	流行性角結膜炎	8.00/4.00	-	4.00	4.00	4.00	1.00	5.00	3.00	3.00	5.00	1.00	-	
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	マイコプラズマ肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

定点種別	疾病	警報/終息 基準値	注意報 基準値	出水保健所管内推移 (定点報告数) 基幹定点(報告数掲載)									
				27週	28週	29週	30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週
内科・小児科 定点	インフルエンザ	30.00/10.00	10.00	-	-	0.20	-	-	-	-	-	-	-
小児科定点	RSウイルス感染症	-	-	-	-	-	-	0.67	2.00	0.33	1.33	5.33	5.00
	咽頭結膜熱	3.00/1.00	-	0.33	-	0.67	1.67	-	2.00	-	2.33	1.33	1.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	8.00/4.00	-	1.33	1.00	0.67	1.67	0.67	1.33	2.67	2.00	3.67	2.67
	感染性胃腸炎	20.00/12.00	-	2.00	2.00	1.33	1.00	0.67	0.33	2.00	-	-	0.67
	水痘	2.00/1.00	1.00	-	1.33	-	0.33	-	-	0.33	-	-	0.67
	手足口病	5.00/2.00	-	5.33	2.33	1.33	1.33	2.33	2.00	-	0.33	4.00	5.67
	伝染性紅斑	2.00/1.00	-	1.67	3.33	1.67	1.00	2.00	1.67	0.67	1.33	1.33	1.00
	突発性発疹	-	-	0.33	1.00	1.00	0.33	-	1.00	-	-	0.33	0.67
	ヘルパンギーナ	6.00/2.00	-	1.33	0.67	1.00	0.67	0.33	1.00	-	-	-	0.67
	流行性耳下腺炎	6.00/2.00	3.00	0.33	-	-	-	-	0.33	0.33	-	-	0.33
基幹定点	細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	マイコプラズマ肺炎	-	-	1.00	1.00	-	-	2.00	-	1.00	-	-	-
	クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	感染性胃腸炎 病原体がロタウイルスに限る	-	-	1.00	-	1.00	-	1.00	-	-	-	-	-

(注意報・警報)

○伝染性紅斑について

【警報開始基準値 2.0, 警報終息基準値 1.0】

(第36週は川薩・出水のみ掲載)

第36週の伝染性紅斑の発生状況は、川薩保健所管内からは、**32名**(定点あたり報告数 **8.00**)の報告があり、毎週報告数が増加しています。

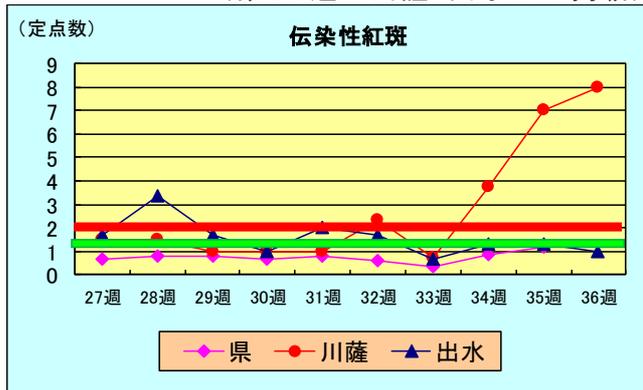
出水保健所管内からは、3名(定点あたり報告数 1.00)の報告がありました。

注 意)

伝染性紅斑は、ヒトパルポウイルスB19を病原体とし、幼児、学童の小児を中心にみられる流行性の発疹性疾患です。

両頬がリンゴのように赤くなることから「リンゴ病」と呼ばれています。

一般的な予防対策として、手洗い、うがい、咳エチケットを心がけることが重要です。



○手足口病について

【警報開始基準値 5.0, 警報終息基準値 2.0】

(第36週は川薩・出水のみ掲載)

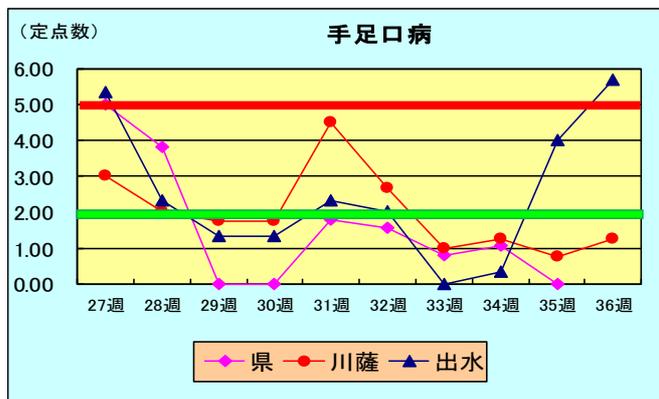
第36週の手足口病の発生状況は、川薩保健所管内からは5名(定点あたり報告数 1.25)の報告がありました。

出水保健所管内からは**17名(定点あたり5.67)**と警報開始基準値(5.00)を超えています。

注 意)

手足口病は、水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症です。

一般的な予防対策として、患者に近づかない、手洗いの励行を心がけることが重要です。



手足口病の予防について

1 手足口病とは

手足口病は、乳幼児、小児を中心とした疾患で、口腔粘膜及び手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性ウイルス感染症です。

夏期に流行のピークがありますが、秋から冬にかけても多少の発生が見られます。

2 症状

3～5日の潜伏期をおいて、口腔粘膜、手掌、足底や足背などに水疱性の発疹が出現します。

一般的には、発熱で始まる軽い病気で、ほとんどの人が、1週間から10日程度で自然に治ります。合併症も、ほとんどありませんが、まれに髄膜炎等の中枢神経症状が発生することもあります。

3 感染経路

飛沫感染、便中に排泄されたウイルスによる経口感染、水疱内容物からの感染などがあります。

4 予防方法

予防方法としては患者に近づかない、手洗いの励行などです。

ウイルスは、患者が回復しても2～4週間程度、糞便の中に排泄されますので、排便後の手洗いの徹底が大切です。

あのとき、〇〇していれば…



いつもと違うところを医師に伝えましょう

たとえば、このようなことに心当たりはありませんか?

感染症の正しい診断に役立つ情報

- 痰のからむ咳が2週間以上続いている 微熱・身体のだるさが2週間以上続いている

ひとつでもチェックが入った“その時”は、**結核**の可能性があります。

その時、医師は…

まず喀痰の結核菌検査を
行いましょう。

※結核と診断した場合は保健所への届出が必要です。

その時、あなたは…

医師に
「結核の検査は必要ありませんか？」
と確認しましょう。

～その長引く症状、結核かも～

厚生労働省 結核 検索

詳細はこちら▶



令和元年9月

❖ 忘れた頃にやってくる、結核

～今でも国内で年間15,000人以上が発症しています～

- 結核は、今でも年間15,000人以上の新しい患者が発生し、約2,000人が命を落としている日本の主要な感染症です。
- 結核を発症しても、早期に発見できれば、本人の重症化が防げるだけでなく、大切な家族や友人等への感染の拡大を防ぐことができます。
- 早期発見のためには、早めに医療機関を受診すること、患者は正しい診断に役立つ情報を医師に伝えることが必要です。そして医師は、必要な情報を患者から聞くことが重要です。しかし、患者と医師の間でそういった情報のやりとりが無いと、診断の遅れや誤った診断につながりやすくなります。



❖ 結核の感染

～結核が進行すると周りの人に感染を拡大させてしまいます～

- 結核の症状(長引く咳・たん、微熱、体のだるさなど)には特徴的なものがなく、早期には目立たないことが多いため、とくに高齢者では気づかないうちに進行してしまうことがあります。
- 結核が進行すると、咳やくしゃみなどによって、空気中に結核菌が飛び散るようになります。その結核菌を吸いこむことにより周りの人に感染が広がります(空気感染)。
- 結核と診断されても、治療を始めれば1～2ヵ月で周りの人に感染させることはなくなり、6ヶ月～9ヶ月の治療期間、医師の指示どおり毎日きちんと薬を飲めば治ります。



❖ だからこそ早期発見・早期治療!

～いつもと違うところを医師に伝えましょう～

- 咳やたん、微熱、倦怠感(体のだるさ)などが2週間以上続く場合は、結核の可能性がります。いつもの「風邪」と決めつけてしまわずに、早めに医療機関を受診して、いつもと違うところを医師に伝えましょう。
- 医師は、そうした患者の情報を聞き取り、結核の可能性がある場合は、たんの検査をしましょう。

